

教育行政報告

最近の教育行政について報告いたします。

○ 児童生徒の学力の向上とたくましい心と体の育成について

今年度の新入学児童は、本市全体で、昨年度よりも12人多い153人を迎え、新学年が始まっております。

これにより、全児童生徒数は、現在1,381人となっております。

学校教育目標は、昨年度に引き続き「夢をもち、心豊かで、元気な子どもの育成」とし、「活かす力」を育む学校教育を推進して参ります。

「よりよく生きるための基礎となる力」である知識・技能の確実な習得を土台としながら、応用・発展させる力となる「活かす力」を身に付けていきたいと考えております。

また、主体的に学習に取り組む態度の向上に更に力を入れ、将来のにかほ市を担う人材の育成に取り組んで参ります。

そのために、一人ひとりの「問い」を大切にし、ほかの人と協働しながら、課題を解決したり、学習の成果を活用する場面を設定するなど「わかった」「できた」「もっと知りたい」という思いを高め、児童生徒のがんばりを認めていくことで自己肯定感、自己有用感の向上を図って参ります。

また、タブレット端末のより効果的な活用と児童生徒の「情報活用能力」の育成を推進するため、GIGAスクール構想推進モデル校を核とした研修を充実させ、ICT支援員、ICTマイスターが連携をとり、日常的なICT活用と情報モラル教育の促進によって、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びをサポートして参ります。

さらに、仁賀保高等学校やTDK歴史みらい館などの関係機関とも連携しながら、プログラミング教育の実践を重ねて参ります。

本市は、独自に教育指導員や外国語活動支援員を雇用しており、きめ細かな指導を行うことで、より分かりやすい授業を目指して参ります。また、各小中

学校に学校生活・学習生活サポート支援員を配置し、支援を必要とする児童生徒に適切に寄り添い、落ち着いた学校生活を送ることができるようサポートして参ります。

そして、保護者や地域住民の力を学校教育に取り込む「コミュニティ・スクール」の機能を活用しながら、ふるさとの自然や歴史、伝統文化、産業等を活かした「にかほ地域学」を充実させることで、地域とともにある学校の更なる充実に努め、ふるさとに関わる教育を推進して参ります。

また、不登校児童生徒に対応するため、にかほ市総合福祉交流センタースマイル内に教育支援センターを設置し、5月8日より運営を開始しております。教員免許を有した相談員3名が、登校に不安を抱えている児童生徒に対応しており、「ありのままの君を受け入れる新たなかたち」をキャッチフレーズとして人との関わりや学ぶ楽しさを知る活動を通して、一人ひとりの心の不安を軽くし、社会的自立を支援して参ります。

○ 児童生徒による各種大会等の結果について

4月22日と23日に開催された本荘由利中学校春季大会では、象潟中学校と金浦中学校サッカー部合同チーム、仁賀保中学校バレー部が見事優勝しております。

また、5月25日に開催された本荘由利中学校陸上競技大会では、仁賀保中学校が男子の総合で優勝を果たし、学校総合でも準優勝に輝いております。リレー・個人種目では、仁賀保中学校が7種目で、金浦中学校、象潟中学校が2種目で優勝しております。

○ 仁賀保中学校における生徒救急搬送事案について

5月17日、仁賀保中学校2年2組の、3時限目の理科授業において、化学変化・化学反応を学ぶ実験を行ったところ、授業終了後の休み時間に、気分が悪い、のどが痛いなどの体調不良を訴える生徒が保健室を訪れはじめたため、万一に備え13名の生徒を由利本荘市内の病院に救急搬送し診察を受けております。

診察の結果すべての生徒が「軽症」と診断され、入院・加療を要することなく午後2時15分までには、保護者に引き渡しのうえ帰宅できており、その後に容体に変化する生徒はおりませんでした。

また、この日の午後7時より、仁賀保中学校の全生徒の保護者を対象に説明会を開催し、経過説明と現状報告を行っております。翌日には、教育委員会から市内すべての小中学校へ再発防止を呼びかけるとともに、児童生徒の安全を最優先するようお願いしたところであります。

教育委員会としては、今後も児童生徒の安心安全の確保に努めて参ります。

○ 学校環境適正化について

義務教育の目的は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家社会の形成者としての基本的資質を養うことにあります。

このため、学校では単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通して思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要となります。

このような教育を行うためには、一定規模の児童生徒数による集団が確保され、加えて経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員が配置されることが望ましいと考えられます。

本市においても児童生徒数の減少により、小中学校の小規模化が進んでいる状況を踏まえ、昨年10月に、にかほ市学校環境適正化検討委員会を設置し、にかほ市を支えていく子ども達をどのように育てていけばいいのか、どういう環境で育てたらいいのかなどの視点から今後の市内小中学校のあり方を検討して参りました。

計5回の委員会を経て、3月27日に学校環境適正化検討委員会から、教育委員会に対して市内小中学校の適正化に関する提言書が提出されています。

提言の内容は、一、適正化の実施にあたっては、よりよい教育環境を子どもたちに提供することを最優先とし、長期的な見通しをもって行うべきであること。二、適正化計画の策定にあたっては、小学校と中学校を一体的に捉え、様々な観点から検討すること。三、適正化計画は保護者や地域の理解を得られるよう丁寧に説明して進めること。四、小学校では1学年2学級を、中学校では1学年3学級を適正規模とすることなど計8項目となっております。

教育委員会では、この提言を踏まえ、今後の小中学校の適正規模や、適正配置についての基本計画を策定して参ります。

○ 第 39 回奥の細道象潟全国俳句大会について

今年度の「奥の細道象潟全国俳句大会」は、8月5日、道の駅象潟「ねむの丘」を会場に開催いたします。

「象潟」が松尾芭蕉の奥の細道紀行の目的地の一つであったことを市内外にPRし、交流人口の拡大を図るとともに、小・中学生の俳句への関心を高めて参ります。

○象潟郷土資料館企画展について

象潟郷土資料館では、6月3日から「海の道・文化の軌跡」と題し、北前船を介して大阪や北海道から本市に運ばれた貴重な資料や文化を紹介する企画展を開催しております。

昨年度、新たに市指定文化財となった、アイヌ語辞書の「森家旧蔵 蝦夷方言藻汐草（もりけきゅうぞう えぞほうげんもしおぐさ）」や、稲作の四季の工程が描かれた屏風「大和耕作之図（やまところさくのず）」も、海を渡ってきた関連の資料として展示しております。

また、昨年度から、鶴岡市・由利本荘市・本市の3市連携交流企画として、各市が所有する北前船関係の資料を持ち回りで展示しております。昨年度は鶴岡市の致道博物館で開催されましたが、今年度は第2弾として、象潟郷土資料館で展示を行っております。

○ 埋蔵文化財の調査について

本年4月より、文化財保護課に埋蔵文化財班を新たに設置し、平沢地区の「行ヒ森遺跡（おこないもりいせき）」について、遺跡の全容を解明し、記録保存をするための発掘調査を実施しております。現在、遺構や遺物の検出作業を行っておりますが、平安時代と思われる遺物が多数見つっております。この現地における発掘調査は、8月末までと見込んでおります。

また、象潟前川地区景観保全型ほ場整備事業の予定地においても、秋頃から、埋蔵文化財の有無を確認する分布調査を実施いたします。事業面積が約200ヘクタールと大規模であることから、ほ場整備事業の進捗に合わせ、年次計画を立てて実施して参ります。

○ 獅子ヶ鼻湿原保存活用計画策定事業について

国指定天然記念物獅子ヶ鼻湿原については、令和2年度から4年度にかけて学術調査を行い、昨年度、緊急調査報告書を刊行しました。その結果を基に、獅子ヶ鼻湿原の保存管理、活用について、具体的な指針となる保存活用計画を、本年度から2年計画で策定する予定であります。

5月に獅子ヶ鼻湿原保存活用計画策定委員会を設置しており、委員は、各分野の専門家の先生及び文化庁や県の担当者、そして、今回新たに由利森林管理署等の管理関係団体を加えた構成としております。

本策定委員会の中で、その学術的な価値をあらためて認識し、次世代への継承に努めるとともに、市民をはじめ多くの方々から理解いただける保存活用の在り方を検討して参ります。

○ 図書館こぴあエレベーター設置工事について

図書館こぴあに、高齢者や小さなお子さん連れの親子など、図書館利用者の利便性を高め、来館者の増加につなげていくためのエレベーター設置工事を実施いたします。

工事期間は令和6年1月19日までを予定しており、この工事に伴い、現在の駅待合室の閉鎖と図書館の閉館を必要とする期間が生じますので、広報、ホームページ等により駅及び図書館を利用する皆様に早めの周知を図って参ります。